

Me ファルマ

グループ工場での製造を基盤に安定供給と品質で存在感 抗アレルギー薬のラインナップ拡充、情報提供にも注力



Me ファルマは2016年、親会社であるMeiji Seika ファルマの品質管理基準に低コスト化を融合し、「少品種大量生産」を掲げる事業モデルとして立ち上げられた。Meiji Seika ファルマの100%出資の会社として、設立当初から国内外に盤石なサプライチェーンを構築し、業界課題である製品の安定供給を堅持してきた。現在、生産効率化や安定供給体制の強化を見据えたコンソーシアム構想も浮上する中、Me ファルマはどのような成長戦略を描いているのか。代表取締役社長・濱島安男氏に話を聞いた。

濱島 安男 氏

Me ファルマ株式会社 代表取締役社長

●●● 薬剤師の先生方を対象とする弊社恒例の後発品企業支持率調査で、御社は昨年12位でしたが今年は11位にワンランク上がりました。この結果についてコメントをいただけますか。

濱島 4年前に当社が初めてこの調査で取り上げられた際は25位でしたので、今回11位となったことは率直にうれしく思います。ただ、過去3年間を振り返ると、毎年1ランクずつ上がってきたにすぎず、停滞していると見ることもできます。これは、Me ファルマとして次の一手や次のステップを明確に示せていないことが一因ではないかと感じています。今後は、薬剤師の先生方により一層支持いただけるよう、Me ファルマならではのメッセージをしっかりと発信していきたいと考えています。

●●● 今回の調査では、御社は安定供給に関して高く評価されていました。どのような理由が考えられますか。

濱島 当社製品の生産錠数のうち、80%以上がMeiji Seika ファルマグループの工場で作られており、関連グループ会社間の密な連携によって需要に応じた生産体制が実現できていると考えています。製造拠点は国内外にあります。Me ファルマ、Meiji Seika ファルマの生産・SCM(サプライチェーンマネジメント)部門、製造工場間で常にコミュニケーションを取り、生産量の確保や調整を行っています。こうした体制により、需要の変化に機敏に対応し、必要なときに必要な分だけ在庫できるように製造の適正化を図っています。

Meiji Seika ファルマグループは、新薬の製造販売を行う医薬品メーカーとして、長い歴史を持っています。その中で、法令に則った製造管理(GMP)や信頼性保証(QA)による高い品質保証体制を維持しています。いくら需要に応じた生産体制を維持できたとしても、品質を担保できなければ意味がありません。まず製品に対する信頼と安心があって、その先に安定供給があるわけです。それを実践しているグループの製造工場が高品質

の製品を生産し、安定して供給し続けられることが、当社の強みと考えています。

●●● 御社は新たな戦略として、複数のAGをラインナップに加えるとお聞かしています。その概要を教えてください。

濱島 Me ファルマでは、AG(オーソライズドジェネリック)であるフェキソフェナジン塩酸塩錠「SANIK」、クロピドグレル錠「SANIK」およびロレアス®配合錠「SANIK」の3製品の国内製造販売承認を承継します。現在は、サノフィが許諾し日医工が国内の製造販売を行っています。

この3製品の中でも、特にフェキソフェナジンのAG承継は当社の成長戦略の大きな力になると考えています。抗アレルギー薬は国民病といわれる花粉症のほか、皮膚疾患などの患者数がきわめて多い領域で汎用されています。抗アレルギー薬の中でフェキソフェナジンの販売数量が最も多く、フェキソフェナジンの中で最も使用量が多いのがAGです*。2026年4月から国内製造販売を開始する予定ですが、承継後も医療現場での混乱を招かないよう、「SANIK」という屋号は変更せず販売していきます。

●●● フェキソフェナジン以外にも抗アレルギー薬を扱われていますね。

濱島 当社は抗アレルギー薬をすでに扱っており(図1)、中でも市場で最も使用されている経口抗ヒスタミン薬については、フェキソフェナジン塩酸塩錠「SANIK」を加えた4成分、親会社のMeiji Seika ファルマが販売しているピラノア®(一般名ピラスチン)とエバステル®(一般名エバステチン)を合わせると6成分となり、明治グループとして経口抗ヒスタミン薬の販売数量は国内トップとなります*。

国内市場で後発品のない経口抗ヒスタミン薬の先発品は現在3成分ですが、これらも近々ジェネリックに置き換えられていく見込みです。そうすると、抗アレルギー薬全般にわたっての医療機

図1 充実する抗アレルギー薬のラインナップ



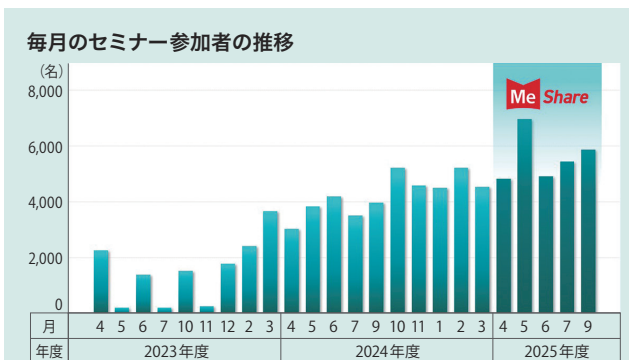
関への情報提供が縮小する可能性があります。グループでは、抗アレルギー薬のリーディングカンパニーとして、薬剤師の先生方が情報不足でお困りにならないように、情報提供のさらなる拡充と継続を図ってまいります。その一環として、親会社のMeiji Seika ファルマと連携し、薬剤師の先生方のニーズに応えるアレルギー疾患領域の新しい情報提供サイトの立ち上げ等も計画しています。

●●● Me ファルマでは薬剤師さん向けのWebセミナーを開催されていますが、大変好評なようです

濱島 ありがとうございます。この4月から、従来開催していたWebセミナーを「Me Share(エムイーシェア)」としてリニューアルしました。薬剤師の先生方の日々の業務にもっと寄り添うことができないか、寄り添うことが患者さんの笑顔につながるのではないかと。そうした想いを出発点に、担当部署のメンバーたちが意見を出し合いながら、新しい知識の“シェアの輪”を広げていく場をMe ファルマでつくっていかうと考え、「Me Share」と名付けました(図2)。

「Me Share」では、最新の行政動向や実用的な調剤業務知識など、現場で役立つ情報をお届けできるように企画しており、シリーズとして継続的に開催しています。最近では約5,000名の先生方に毎回ご視聴いただいています。また、視聴いただいた方には、セミナー後も継続して最新の「Me Share」開催情報やお役立ち資料のご案内をメールで配信しています。先ほどお話ししたアレルギー疾患領域の情報提供もその一環であり、薬剤師の先生方に寄り添った情報発信を積極的に行っていくこと—

図2 PECS単位が取得できるWebセミナー「Me Share」



詳細は2次元バーコードから

Me Share

薬剤師の実務を支えるWebセミナー

参加無料でPECS単位が取得できる講座が充実!

詳しくはMe Shareページで!

それこそがMe ファルマの役割であり、使命だと考えています。

●●● 親会社のMeiji Seika ファルマは業界のコンソーシアム構想を提言し、その実現にリーダーシップを発揮しておられます。御社も協働されるのでしょうか。

濱島 もちろんです。親会社であるMeiji Seika ファルマとダイトが中心となって進めるコンソーシアム構想は、後発医薬品業界を再編し、安定供給実現のためには必須だと考えております。Me ファルマの強みは、後発品専門の販売プラットフォームを構築していることです。当社もコンソーシアム構想の一翼を担える存在になれるよう、既存の販売力をさらに強化してまいりたいと考えています。

●●● 最後に薬剤師様へのメッセージをお願いします。

濱島 当社の最大の強みは、高品質な医薬品を安定的に供給するMeiji Seika ファルマグループの一員であることです。

2026年4月からフェキソフェナジン塩酸塩錠「SANIK」をはじめ、新たにAG3成分をラインナップに加える責任を果たすべく、今後は、特に抗アレルギー薬に関する情報提供に拘り、実践することで薬剤師の皆さまに貢献して参ります。

これからのMe ファルマにどうぞご期待ください。

健康にアイデアを

meiji Meファルマ株式会社

<https://www.meiji-seika-pharma.co.jp/me-pharma/>